

科目・コース（ユニット）名：行動科学Ⅴ：社会的コミュニケーション論
英語名称：Behavioral ScienceⅤ: Societal communication

【担当責任者】 竹林由武

【連絡先】 竹林由武：ytake2@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年, 【学期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義

【概要】

臨床現場における患者や家族とのコミュニケーションのみならず、地域保健の観点から、医療者は社会やコミュニティにおけるステークホルダーとの円滑なコミュニケーション能力が求められる。本講義では、そのような社会的コミュニケーションの基礎を学び、人の心理・認知・行動、ヘルスリテラシー、信頼、倫理、多様性の理解といったコミュニケーション上に必要な要素について学ぶ。

【学習目標】

- 1) 社会的コミュニケーションの基礎を説明できる
- 2) 人の心理・認知・行動、ヘルスリテラシー、信頼、倫理、多様性の理解といったコミュニケーション上に必要な要素について説明できる。

【教科書】

授業中、必要に応じて担当の講師から紹介がある。

【参考書】

以下を参考図書とする。

1. 中谷内一也編：リスクの社会心理学 有斐閣
2. National Research Council 編、林裕造、関沢純監訳：リスクコミュニケーション 前進への提言

【成績評価方法】

成績評価は①出席状況、②授業態度、③期末レポートに基づき行う。①、②は各講義後のレスポンスカードの提出および内容で評価する。原則、5分の4以上の出席を必須とする。

【学習上の注意事項】 特記事項なし

【垂直的統合授業の実施内容】

一連の行動科学の講義（行動科学Ⅰ～Ⅴ）の一つに位置付けられ、他の行動科学の講義で学んだ内容が本講義の理解に結びつき、それらが本講義によってさらに深まると期待される。

【水平的統合授業の実施内容】

リスクコミュニケーションについて、放射線医療、放射線防護、地域保健、臨床心理、社会科学、医療人類学などの多様な分野にまたがる授業内容である。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

本授業は、東日本大震災及び福島第一原発事故後に求められたリスクコミュニケーションに関する内容を含む。とりわけ、臨床的視点に加えて、社会的な対話のあり方について学習する授業となる。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名	備考
1	2026/6/05	金	2	(講) 行動科学の重要性 1	竹林由武	
2	2026/6/05	金	3	(講) 行動科学の重要性 2	竹林由武	
3	2026/6/12	金	2	(講) ヘルスリテラシー	後藤あや	
4	2026/6/12	金	3	(講) ヘルスリテラシー	後藤あや	
5	2026/6/19	金	4	(講) 放射線リスクコミュニケーション	田巻倫明	
6	2026/6/19	金	5	(講) 放射線リスクコミュニケーション	田巻倫明	
7	2026/6/26	金	2	(講) 地域医療、科学とコミュニケーション	越智小枝	
8	2026/6/26	金	3	(講) 地域医療、科学とコミュニケーション	越智小枝	
9	2026/7/3	金	2	(講) 医療人類学: 医療と多様性	道信良子	
10	2026/7/3	金	3	(講) 医療人類学: 医療と多様性	道信良子	
11	2026/7/10	金	2	(講) 心理療法と対話スキル	竹林由武	
12	2026/7/10	金	3	(講) 全体のまとめ	竹林由武	

【担当教員】

教員氏名	職	所属
竹林由武	講師	福島県立医科大学 健康リスクコミュニケーション学講座
田巻倫明	課長	国際原子力機関 原子力科学・応用局 保健部 応用放射線生物学・放射線治療学課

竹林由武	講師	福島県立医科大学 健康リスクコミュニケーション学講座
後藤あや	教授	福島県立医科大学 総合科学教育研究センター
越智小枝	教授	東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座
道信良子	教授	福井県立大学 看護福祉学部